

<展覧会 開催のお知らせ>

UNPEL GALLERY（アンペルギャラリー）は、運営母体であるあいおいニッセイ同和損保のメセナ活動として、全国の大学・美術大学と連携し日本画を学ぶ学生・卒業生に発表の場を提供しております。この企画は、日本画を志す若手作家の育成と共に、各地域の文化芸術の支援活動を通じてあいおいニッセイ同和損保の活動指針である「地域密着」を具体化する取り組みです。2025 年は 9 校が参加し、若手日本画作家がそれぞれの作品を発信するロングラン企画（2 月～8 月）で、今回は 5 月 3 日（土）から名古屋芸術大学大学院 日本画 6 人展、伊藤 歩生・大竹 しおり・小川 友季・田口 果歩・田中 雛乃・棚次 寛の 6 名による展覧会を開催致します。

■展覧会概要

タイトル	『5月のひつじ』 ～第34回大学日本画展 <名古屋芸術大学大学院 日本画 6人展>～
会期	2025年5月3日（土）～ 5月18日（日） 11:00 ～ 19:00（月曜定休・最終日 17:00 まで）【入場無料】
会場	UNPEL GALLERY 東京都中央区日本橋 3-1-6 あいおいニッセイ同和損保八重洲ビル 1F
参加作家	伊藤 歩生（いとう あおい）、大竹 しおり（おおたけ しおり）、小川 友季（おがわ ゆき） 田口 果歩（たぐち かほ）、田中 雛乃（たなか ひなの）、棚次 寛（たなづ ひろし）
展覧会内容	今年の大学日本画展におきまして、名古屋芸術大学からは美術研究科大学院よりメンバーを選出し「5月のひつじ」と命名したグループ展を開催させていただきます。 出品者は 2024 年 3 月に日本画コースを卒業した 6 名であり、お互いの作風を認めながら個の姿勢を大切に学んでいる、言わば芸術という道を模索し繰り返し進む同志の様な関係性を持っています。 画材の特性を突き詰めて自己表現に繋げながら、内包する感情を色彩やマチエールに還元して自身の心持ちを表出させています。 いずれの作品も制作する意味が本人の在り方と直結しており、鑑賞される方々の心元に届くものと思います。 春を表す例えとして March comes in like a lion, and goes out like a lamp.（3 月はライオンの様に荒々しい気候で始まり、子羊の様に穏やかに終わる）という言葉があります。制作への力強い初期衝動を自己の感情に忠実に画面に留めてほしいという思いを、会期である 5 月と重ね、このタイトルを選びました。 「5月のひつじ」ぜひご覧ください。 名古屋芸術大学美術領域主任 長谷川喜久 ※作家それぞれ 100 号と 20 号の作品を 1 点ずつ、他小作品を数点展示
主催	名古屋芸術大学日本画コース
企画	UNPEL GALLERY
協賛	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

<ご連絡・お問い合わせ先>

ギャラリーオフィス 11:00～19:00 月曜定休（担当 / 井上・渡邊）

E-mail / tsubaki@unpel.gallery <https://unpel.gallery/>

TEL / 03-3548-7780 FAX / 03-3548-7781 * お問い合わせは E-mail にてお願いします

■作家プロフィール

伊藤 歩生

愛知県出身

2024 年 名古屋芸術大学日本画コース卒業

現在 名古屋芸術大学大学院美術研究科日本画制作修士課程 在学

2021 年 迷うくら名古屋芸術大学日本画コース選抜展 (佐藤美術館) (同'23'25)

2023 年 第 8 回石本正日本画大賞展 入選

artists N,G,Y〜アート、今、未来〜 (松坂屋名古屋店) (同'24)

2024 年 第 51 回名古屋芸術大学卒業修了制作展 プライム大学賞佳作 立風賞 後藤紙店賞

第 19 回 CBC 翔け! 二十歳の記憶展 入選

まあいい日 伊藤歩生 日本画個展 (鈴画廊)

【コメント】

自分と身の回りが緩やかに変化しながら過ぎていく日々の中で、日常生活の愛おしい瞬間や惹かれたものを描きとめたいと考えています。心地の良い線と色や質感に、モチーフに込めた自分の思いをのせて表現しています。



「いくつに切る？」

2025 年制作
727 × 606 mm
水干絵具、岩絵具
胡粉、銀箔

大竹 しおり

愛知県出身

2024 年 名古屋芸術大学日本画コース卒業

現在 名古屋芸術大学大学院美術研究科日本画制作修士課程 在学

2021 年 迷うくら名古屋芸術大学日本画コース選抜展 (佐藤美術館) (同'23'25)

2022 年 第 7 回 石本正日本画大賞展 入選

芸大生の show case 展/名古屋東急ホテル (同'25)

第 17 回 CBC 翔け!二十歳の記憶展 2022 グランプリ

2023 年 第 10 回 日展 初入選 愛知県知事賞 CBC 賞

artists N,G,Y〜アート、今、未来〜 (松坂屋名古屋店) (同'24)

2024 年 第 51 回 名古屋芸術大学卒業修了制作展 卒業制作優秀賞

北名古屋市長賞 CBC 賞 ギャラリーかんしょ賞 後藤紙店賞

第 1 回 various colors (ギャラリー和田)

大竹しおり 日本画展 花束のうたごえ (愛知県美術館ギャラリー)

2025 年 第 12 回 郷さくら美術館 桜花賞展 選抜出品

【コメント】

身近に関わる物事を題材に過去の記憶や経験を通して自身を描いています。淡い色彩や曖昧な輪郭の空気に精神性を関連付け、作品を通じて人々の心や自分にとって安心感と癒しの力を生み出すことを制作のテーマとしています。



「円らにそそぐ」

2025 年制作
727×606mm
雲肌麻紙、岩絵具、
胡粉

小川 友季

愛知県出身

2024 年 名古屋芸術大学日本画コース卒業

現在 名古屋芸術大学大学院美術研究科日本画制作修士課程 在学

2023 年 迷うくら名古屋芸術大学日本画コース選抜展（佐藤美術館）（同'25）

2024 年 第3回古川美術館 F アワード 入選

第24回佐藤太清賞公募美術展 入選

artists N,G,Y〜アート、今、未来〜（松坂屋名古屋店）

【コメント】

「色で魅せる絵画」をテーマに制作しています。自分の目で見て美しいと感じたものや想像する世界を題材にしており、全体の空気感が主役となっています。夢の中にいるようで眺めていたくなる絵画を追求しています。考えるより先に一目見た瞬間、綺麗な、素敵だなと感じてもらえるような作品を目指しています。



「夕暮れ時の眼差し」
2025 年制作
727×606mm
岩絵具、水干絵具、
雲肌麻紙、パネル

田口 果歩

岐阜県出身

2024 年 名古屋芸術大学日本画コース卒業

現在 名古屋芸術大学大学院美術研究科日本画制作修士課程 在学

2021 年 迷うくら名古屋芸術大学日本画コース選抜展（佐藤美術館）（同'23'25）

2023 年 artists N,G,Y〜アート、今、未来〜（松坂屋名古屋店）（同'24）

2024 年 CBC 翔け！二十歳の記憶展 中日新聞社賞

佐藤太清賞公募美術展 入選

FACE2024 入選

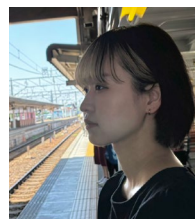
第51回名古屋芸術大学卒業・修了制作展 優秀賞

美濃紙芸賞 ギャラリーMOS 賞

田口果歩 個展〜overture〜（ぎやうりい朋）

【コメント】

日々忙しく変化する感情や気付きを題材に制作しています。移りゆく季節や何気ない会話の中にある瞬間を描けたらと思っています。



「未明に発つ」
2025 年制作
727×606mm
高知麻紙、岩絵具、
胡粉、アクリル絵の具

田中 雛乃

愛知県出身

2024 年 名古屋芸術大学日本画コース卒業

現在 名古屋芸術大学大学院美術研究科日本画制作修士課程 在学

2023 年 迷うくら名古屋芸術大学日本画コース選抜展（佐藤美術館）

ウィメンズ展（塚本画廊）（同'24）

名美の彩り展（東京九段耀画廊）（同'24）

2024 年 ぎふ美術展 入選

Take a step! -NUA 日本画選抜展-（大丸京都店）

artists N.G.Y2024～アート、今、未来～（松坂屋名古屋店）

【コメント】

幼少期、両親からカメとカエルのぬいぐるみを与えられたのが動物好きになったきっかけかもしれません。動物の造形・質感・動作・表情あらゆるものに惹かれ、例えば動物の写真を見て、この動物は今どんな気持ちでいるんだろうと想像して遊びました。

年齢を重ね生態等の知識を得るとより好きになり、今ではその好きな動物の姿を、自分の憧れる動物の姿を日本画で表現しています。



「さつき」
2025 年制作
727×606mm
高知麻紙、胡粉、
水干絵具、岩絵具

棚次 寛

岐阜県出身

2024 年 名古屋芸術大学日本画コース卒業

現在 名古屋芸術大学大学院美術研究科日本画制作修士課程 在学

2022 年 名美の彩り展（東京九段耀画廊）（同'23'24'25）

第 22 回福知山市佐藤太清賞公募美術展 入選

2023 年 棚次寛 個展 ～生き物たちと～（ギャラリーディマージュ）

Take a step! -NUA 日本画選抜展-（大丸京都店）

迷うくら名古屋芸術大学日本画コース選抜展（佐藤美術館）

（同'25）

第 7 回新日春展 初入選（同'24）

安雲野涼風扇子展 大賞

artists N,G,Y～アート、今、未来～（松坂屋名古屋店）（同'24）

2024 年 ぎふ美術展入選（岐阜県美術館）

第 1 回 various colors（ギャラリー和田）



「受援力」
2025 年制作
727×606mm
楮紙、真鍮箔、胡粉、
墨、岩絵具、水干絵具

【コメント】

現代で日本画を描くにあたり必要なことは何か？どこを目指すのか、短い日本画というジャンルの歴史の中での立ち位置を模索して制作しています。